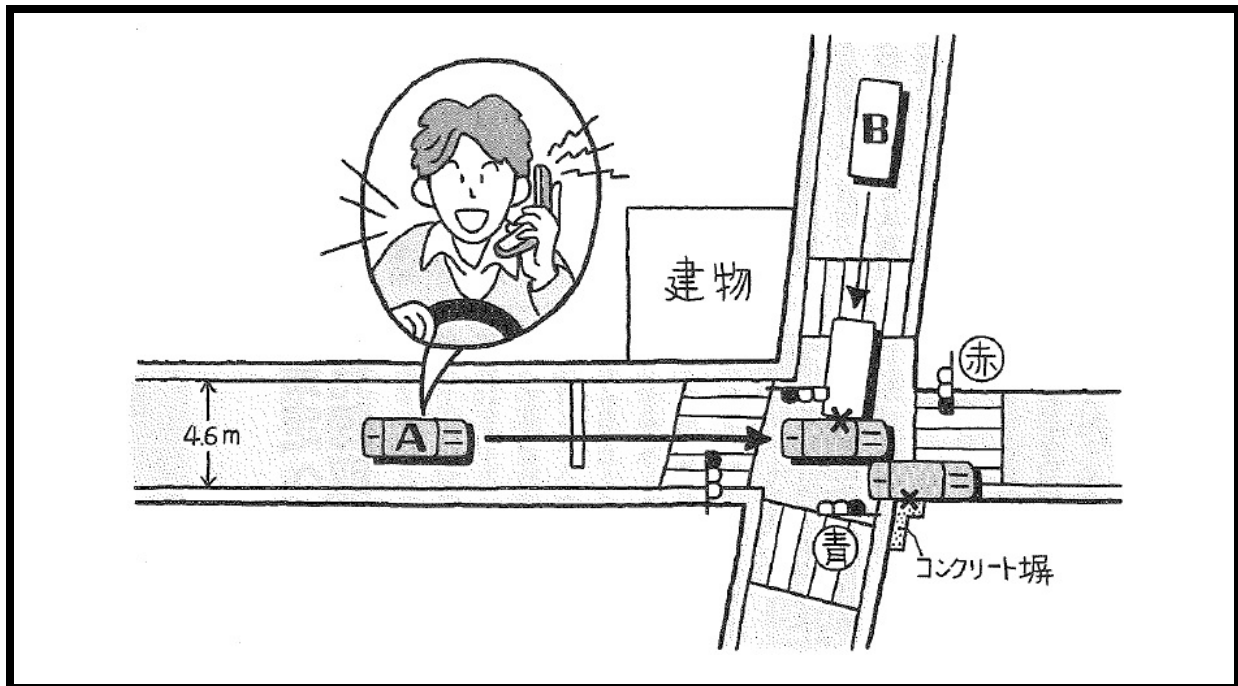


■事故の概況



事故類型：出会い頭

発生日時：午前中

当事者A：普通乗用車 20歳代 男性

当事者B：普通乗用車 20歳代 男性

■ 事故の概要

Aは幅員約5mの直線道路を時速約40kmの速度で西から東に走行していました。携帯電話の着信音が鳴ったので受信ボタンを押して友人と通話を始めると、Aの意識は会話の内容でいっぱいになっていました。突然、左から来たB車が左側面に衝突し、A車は飛ばされて右前方の防護コンクリート塀に衝突して停止しました。

一方Bは、幅員4mの道路を時速約40kmで北から南に走行中、先の交差点が青になっているのを確認し、直進しました。信号が青なので、特に注意を払わず交差点に進入したところ、赤信号を無視して進行してきたA車の左側面に衝突しました。

■ 事故から学ぶ

携帯電話を使用していたことによる影響が自動車の運転に現れた典型的な事例です。Aは前を見て運転しているつもりだったのですが、携帯電話のほうに夢中になってしまいました。そのため、運転に必要な「外部の情報を認知して、自分はどうすべきかという判断」がおろそかになってしまいました。

携帯電話を手に持って会話することが危険ということですが、では手に持たないハンズフリー電話なら良いのでしょうか？ハンズフリー電話を使った実験では、ハンズフリー電話でも携帯電話を手に持って話した場合と同じくらい危険だとしています。

電話が掛かってきたからといって、突然反応するのではなく、安全に停車ができる場所にまずは停まる、その後かけ直すようにしましょう。